



行部本といはれども、
一上殿と大宰府より
山縣大臣の至極
之氣を歸朝ありて
神皇に爲るまで及
ゆへ正法如何なるか
日しとの共中大臣他
ふり反對説云ひす。おのそ
若くはいして新案うたがひあるやん
然らず決して批判
つらふとなちから下
原政のとゝ系然り一日
萬ト色深き國報も
成不度成者御望
世方代で持参する
ナリ二つ版を示す。
清曜

大隈大臣殿

ニ件之余りの申上げ、
是裁判の結果迄に入
るとの所存也

黒田清隆書簡 大隈重信宛

明治22年10月2日

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library

イ14-B090(8)